



## 負担金について初の提示

11月17日に佐賀県庁で行われた、国土交通省の平嶋鉄道局次長との面談において、未整備区間である武雄温泉～新鳥栖間に関して、「佐賀県の実質負担金は長崎県の半分以下が相場」との見解を国土交通省に示していたことが分かりました。

佐賀県が財政負担について目安を明らかにするのは今回が初めてのこととなります。国土交通省は2019年に仮定の条件に基づき、佐賀県の実質負担を合計660億円と試算していますが、佐賀県は建設費が少なくとも約1兆円に上振れするとし、「実質負担は1,400億円以上になる」と指摘しています。

## 合同研修会が開催されました

11月18日、長崎県庁において、JR長崎駅周辺の再整備や新幹線開業による経済波及効果などについて、3団体（「長崎新幹線建設推進実行委員会」、「佐賀県フル規格促進議員の会」、「フル規格促進佐賀県民会議」）合同の研修会が開催されました。

研修会には、議員や経済関係者など約50人が参加し、県や市の担当者から「アミュプラザ長崎新館」のオープンや建設中の長崎スタジアムシティ、大型船2隻の接岸が可能となる2バース化を進める長崎港松ヶ枝埠頭などの説明がありました。



## 宮崎県がルートの本格調査

11月30日、宮崎県が東九州新幹線における新八代駅と宮崎市を結ぶルートの本格調査を行う方針を固めたことが判明しました。

宮崎県の河野俊嗣知事は11月29日の県議会でのこのルートについて、「有力な選択肢の一つ。県民の新幹線実現に向けた夢や期待に応えるため、調査、研究をしていきたい。」と発言しました。

また、宮崎県の総合交通課によると、庁内で検討してきた新八代駅と宮崎市を結ぶ構想を今後は外部に委託し、詳細に調査させていくとのことでした。



※東九州新幹線とは・・・全国新幹線鉄道整備法に基づく、福岡県を起点に大分市、宮崎市付近を通過し、鹿児島市を終点にする基本計画路線である。関係自治体が要望活動を続けているが、現在も進展がない状態となっている。

## 与党 PT 九州検討委員会開催へ

12月6日、福岡、佐賀、長崎の3県を結ぶ西九州新幹線の整備方法を話し合う与党 PT 九州検討委員会が東京都内で開催され、整備方式が決まっていない武雄温泉～新鳥栖間について、国土交通省と佐賀県で今月中に早期着工に向けた協議を行うよう検討委員会が要請しました。

佐賀県の山口祥義知事は12月7日の定例県議会一般質問において、南里隆副知事が国土交通省から協議の打診を受けたことに対し、「誰が来るのか、どういう状況となるか分からないが、県としてしかるべく対応したい。多くのチャンネルで議論を進めたいと申し上げている通りなので受けたいと思う。」と述べたとのことでした。

南里副知事は、国土交通省の平嶋鉄道局次長から協議のスケジュール調整を行いたいという連絡を受け、「『幅広い協議』とは別だと思ふ。」との見解を示していたとのことでした。

なお、国土交通省と佐賀県の協議は12月28日に開催される見通しです。

※佐賀県の地域交流部長と国交省幹線鉄道課長による「幅広い協議」は2020年6月から公開で開催され、2023年2月の第7回協議を最後に開催されていない。

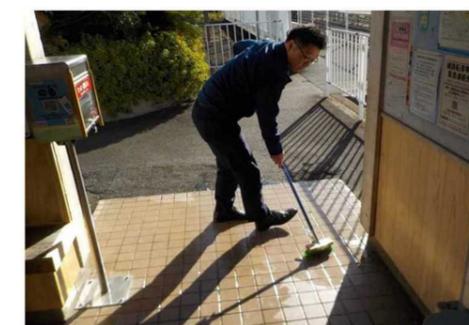
## ボランティア活動ありがとうございました！

12月8日、本協議会の法人会員である(株)サニクリーン大村営業所様に岩松駅の清掃活動を実施していただきました。

寒い中、10名の社員にお集まりいただき、駅舎内やトイレ、駐車場の清掃を行っていただきました。誠にありがとうございました。



(株)サニクリーン大村営業所の皆様



清掃作業を行う山田所長

～ご入会ありがとうございます！！～

<個人会員> 三原 国和 様

全線フル規格を一丸となって実現しよう！